

【消化器内科】

便秘症の治療薬について

国吉病院

医師 岡本博司さん

便秘症の治療薬は、便を軟らかくする浸透圧性下剤と、腸管を動かす刺激性下剤が広く使われてきました。しかし浸透圧性下剤は、高マグネシウム血症の恐れ、刺激性下剤は、腹痛、長期使用に効きにくくなるなどの欠点がありました。近年これらの欠点の少ない新薬が登場してきました。ルビプロストン



は小腸内の水分を増やし便を軟らかくします。効きすぎると嘔気、下痢などの副作用が見られるのが欠点です。リナクロチドは小腸内の水分を増やすとともに、内臓痛覚神経線維に作用し、痛みや不快感を改善する働きもあるのが特徴です。本年4月には胆汁酸トランスポーター阻害薬エロピキ

シバットが登場しました。胆汁酸の小腸での再吸収を抑えて大腸の胆汁酸が増加することにより、大腸内の水分分泌を促進し、消化管運動を促進する働きも併せ持つことが特徴で、自然な排便が期待されます。

医療法人三和会 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】

午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】

消化器内科・循環器内科・

消化器外科・緩和ケア内科・

整形外科・内科(ペインクリニック) 他